

群 教 七	G01 - 02
	令2.275集
	国語 - 小

情報を活用し、自分の考えが伝わるように 書くことのできる児童の育成

—情報カードを使って収集・整理した情報を根拠に、
考えを伝え合う活動を通して—

特別研修員 福澤 奈津季

I 研究テーマ設定の理由

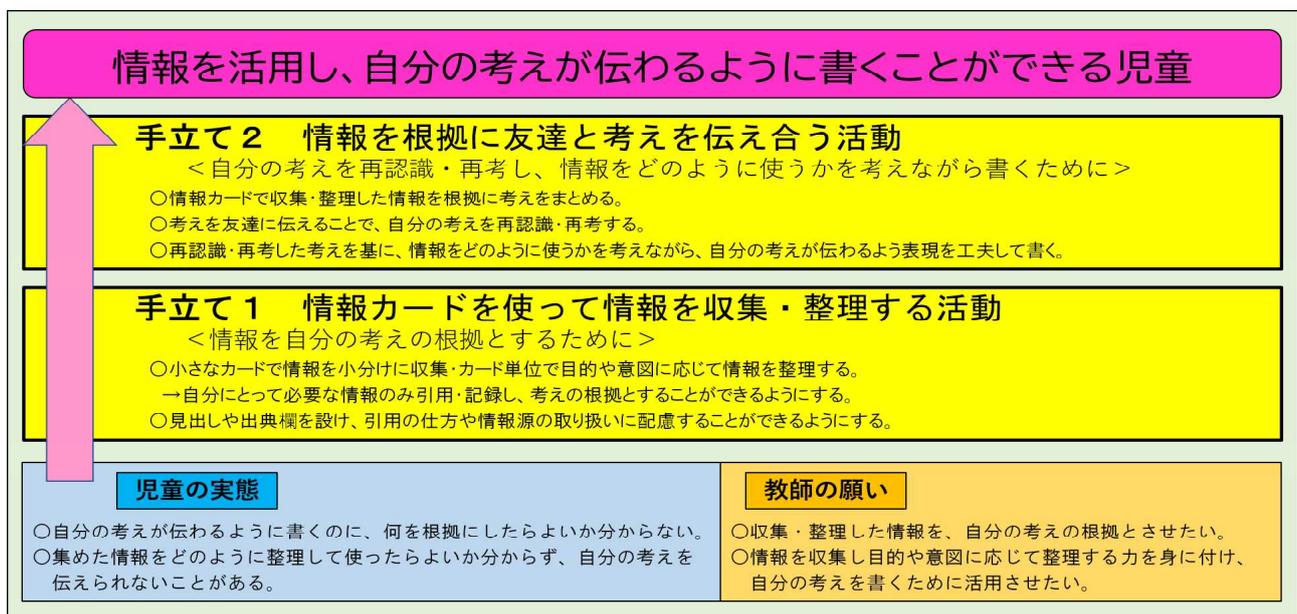
小学校学習指導要領では、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていきけるようにすることは喫緊の課題である」という中教審答申を受けて、「情報の扱い方に関する事項」が新設され、「自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながる」として、重要な資質・能力とされた。「読むこと」には、「主として学校図書館などを利用し、本などから情報を得て活用する言語活動」が例示されている。「はばたく群馬の指導プランⅡ」では、必要感のある言語活動の設定が求められ、情報や読書についても項立てて扱われている。また、平成31年度全国学力・学習調査の結果から、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること」や「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」が課題として挙げられている。

研究協力校においても、児童は情報を考えの根拠として文章を書いた経験が少なく、情報を得る際にも、どの資料から情報を収集すればよいか、収集した情報をどう整理すればよいか分からずに困っている様子が見られ、情報を根拠とすることや情報を活用し自分の考えが伝わるように書くことに課題があることが分かった。

そこで、必要感をもって情報を収集・整理し、情報を根拠に文章を項立てし、自分の考えを友達と伝え合って深める活動を通して、児童は自分の考えを再認識したり再考したりし、自分の考えを伝えるために情報をどのように使うかを考えながら表現を工夫して書くことができると考え、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

情報を扱う単元において、児童が収集・整理した情報を活用し、自分の考えが伝わるように書くことができるよう、以下のような手立てを設定した。

手立て1 情報カードを使って情報を収集・整理する活動

本単元では、収集した情報を蓄積する手段として、「情報カード」を使用する（図1）。小さなカード（約10cm×20cm）を使うことで、調べて分かったことを小分けに記録することができる。カードには出典欄を設け、他者に伝える場合は出典の書き方にも留意することを学べるようにする。

情報を整理する際には、目的や意図に応じてカード単位で情報を整理させることで、児童が残したカードが児童自身に有用な情報として、自分の考えの根拠となると考える。

手立て2 情報を根拠に友達と考えを伝え合う活動

情報カードで収集・整理した情報を根拠に自分の考えをまとめさせることで、情報を活用することができるものとする。また、情報をどのように項立てたり割り付けたりしたかを伝え合わせることで、児童は自分の考えや意図が伝わるような説明をしながら自分の考えを再認識したり、友達の考えに触れて、どのように書けばより考えが伝わるかを再考したりすることができる。

ここで再認識・再考した割付や項立てを基に、情報をどのように使うかを考えながら書くことで、児童は自分の考えが伝わるよう表現を工夫して書くことができるものとする。

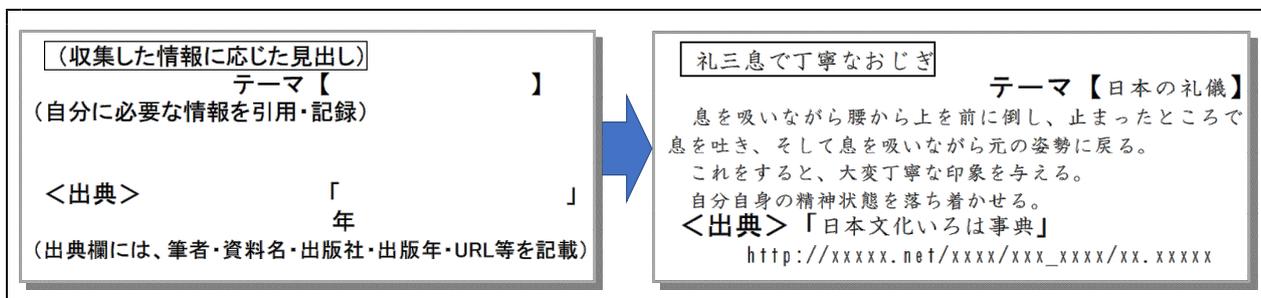


図1 情報カードと記入例

III 研究のまとめ

1 成果

- 情報カードを使って情報を収集・整理する活動では、カードに小分けにして情報を収集し、カード単位で自分に必要な情報を目的や意図に応じて整理したことで、児童は情報の必要な部分だけ引用したりまとめたりし、考えの根拠とすることができた。
- 情報を根拠に友達と考えを伝え合う活動では、友達の考えに触れて自分の考えを深める児童が多く見られた。また、自分の考えのよさを再認識する児童もいた。
- 情報カードを使って情報を収集・整理し、自分の考えを友達と伝え合ったことで、情報をどのように書くかを考えながら書く姿が見られた。

2 課題

- 情報カードを使って情報を収集・整理する活動では、その情報の必要性をよく考えずに整理し、再度調べ直す必要が生じた児童も数名見られた。情報カードを整理する際に、本当にこの情報は必要かをよく考えるよう言葉掛けする必要がある。
- 情報を根拠に友達と考えを伝え合う活動では、話し合ったことで自分の考えが明確になった一方、話し合ったこと自体に満足する児童も半数以上いた。なぜこのテーマで調べ、考えたのかを意識するよう支援することで、自分の考えが伝わるような書き方をさせていきたい。

実践例

- 1 単元名 「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」
 教材名 「日本文化を発信しよう」光村図書（第6学年・2学期）

2 本単元について

本単元は、『鳥獣戯画』を読む』を読むことで日本文化への関心を深め、日本文化について調べて情報を発信するという構成になっている。本単元において、自分の考えが伝わるように書くためには、情報を収集・整理する力が不可欠である。

本単元においては、伝える相手を明確にして、日本文化の一例をリーフレットにまとめるという言語活動を行い、必要感をもって情報を収集・整理し、情報を活用して文章を書くことをねらいとする。情報カードを使って情報を収集・整理したり、情報を根拠に友達と考えを伝え合う中で自分の考えを再認識・再考したりする活動を通じて、児童が情報を根拠として活用し、情報をどのように書くかを考え、自分の考えが伝わるように表現を工夫して書くことができるものと考えた。

以上のような考えから、以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	必要感をもって情報を収集・整理し、リーフレットとしてまとめる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 情報の使い方や、情報と情報とを関係付けながら図などで表す方法を理解すること。 イ 自分の考えが伝わるように、情報を収集・整理し、書き表し方を工夫すること。 ウ 既習事項を基に、情報の有用性を認識し、進んで調べたり書いたりして考えを伝え合おうとすること。	
		(知識及び技能) (思考力、判断力、表現力等) (学びに向かう力、人間性等)
評価 規準	(1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 (2) 書くことにおいて、本やインターネットなどから得た情報を引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (3) 粘り強く情報の収集・整理を行い、リーフレットの全体像を見通し、既習事項を生かしながら自分の考えが伝わるようなリーフレットに仕上げようとしている。	
		(知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)
過程 の 概 要	時間	主な学習活動
	第1時	・日本文化を発信するための学習計画を立てる。
	第2時	・日本文化とは何かを調べたり話し合ったりし、伝えたいテーマを選ぶ。
	第3時	・項立てを考え、必要に応じて情報を収集する。
	～5時	・収集した情報を整理し、項立てを見直す。
	第6時	・項立てに沿ってリーフレットの割付や見出しを考え、リーフレットの全体像をイメージする。
	～7時	・情報をどのように項立てたり割り付けたりしたかを友達と伝え合い、自分の考えを見直す。
	第8時	・見直した考えを基に、情報をどのように書くかを考えながら表現を工夫して文章を書く。
	～10時	・友達と作品を交流し、情報の活用の仕方や構成の仕方、文の書き表し方などを共有する。
まとめ	第11時	・単元全体を振り返り、文章を書く際に大切なことを考え、まとめる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全11時間計画の第7時に当たる。本時までには児童は、リーフレットのテーマに沿って情報を集め、項立てから割付、見出しの設定までを行ってきた。テーマを考える際に、このテーマを選んだ理由がリーフレットの読み手にも分かるように調べたり考えたりすることを伝えてきたため、児童は理由や根拠をもって情報を扱ってきた。本時では、割付や見出しを友達と伝え合い、自分の考えが伝わるリーフレットになっているかを考えた。情報を根拠にしながらか割付や項立てを熟考することで、次時以降、自分の考えをリーフレットにどのように表出するかを考えながら、自分の伝えたい考えが読み手に伝わるように書くことができるものと考えた。本時においては研究における手立て2を用い、具体的な活動は、以下のとおりであった。

【伝え合いの視点の共有と情報カードを併用した伝え合い】

伝え合いを行う際、構成や情報量、図や写真の扱いなど、伝え合いの視点を共有するとともに、割付や見出しと収集・整理した情報や項立てとを併用しながら自分の考えを伝えさせることで、視点に沿いながら書き手の考えに合った書き方について話し合いやアドバイスができるようにする。

【伝え合いを基に、自分の考えを再認識・再考】

伝え合いの後、割付や見出しを見直す時間を設けることで、自分の考えを再認識したり、友達の考えに触れて、どのように書けばより考えが伝わるかを再考したりすることができるようにする。

4 授業の実際

(1) 前時までの活動について

児童は前時まで、上州富岡駅を利用する人に向けて日本文化を発信するため、テーマを選び、項立てを考え、情報をカード形式で収集・整理してきた（図2）。

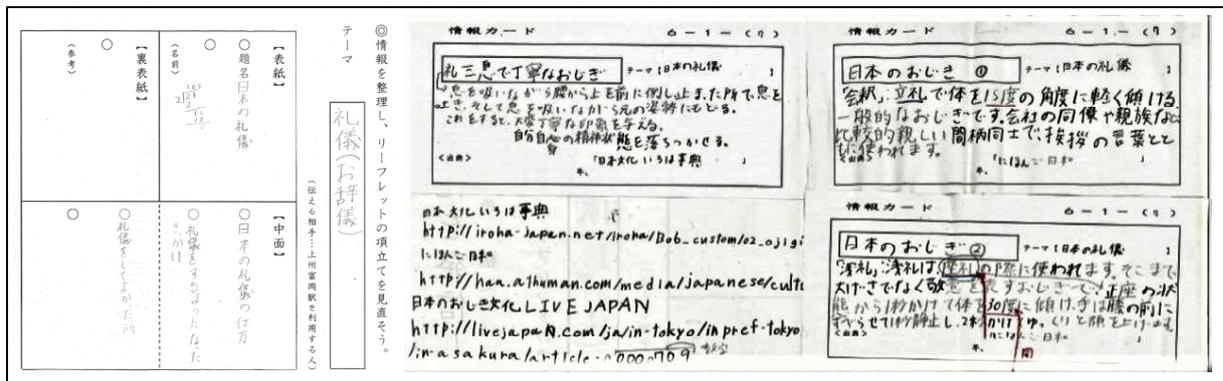


図2 項立て（左）と情報カード（右）

その際、前単元や既習事項を想起させながら活動したため、「調べたことを基に主張しよう」「このカード、前にも使ったから、調べ方は分かる」などのつぶやきが聞かれ、児童は情報を事例や根拠にすることの有用性を思い出しながら調べることができた。その後、児童は情報を根拠に見直した項立てに沿って、割付と見出しを作成した（図3）。



図3 割付と見出し

(2) 本時の「つかむ」過程において

初めに本時の活動について確認し、「自分がどのような考えで項立てや割付を行っているかを友達と伝え合うことで、自分の考えを基にアドバイスがもらえるようにする」という見通しをもたせた。また、構成や情報量、図や写真の扱いといった「伝え合いの視点」を明確にしたことで、児童は視点に沿って伝え合うというめあてを明確にすることができた。

(3) 本時の「追究する」過程において

児童を2班編成にし、リーフレットの割付や見出しを読んでも考えを伝え合う活動を行った（図4）。

児童はまず、自分がどのような考えでテーマを決め、情報を集め、項立てし、割付を書いたかを友達に伝えた。説明を聞いた児童は、相手の考えを踏まえて感想を述べたり、アドバイスをしたりしていた。

児童は、初めのうちは説明を聞き、割付を読み、感想を述べるだけに留まっていたが、やりとりを繰り返すうちに、質問をしながら話を広げたり、悩んでいる部分を相談したり、身振り手振りで話し合ったりするようになった。伝え合い自体はスムーズに行えたが、図の扱いや枠の大きさといった形式的な部分での意見交流が多く見られ、なぜそのように考えたかといった内容的な部分にまで踏み込めない児童も半数以上見られた。伝え合えなかった内容的な部分に関しては、再度内容的な見直しをするよう言葉掛けをしてからリーフレットを書く活動に入ったため、リーフレットを作成しながら内容的な部分での意見を友達に求める児童もいた。

伝え合いの後、割付や見出しの見直しを行わせた。この時点では内容的な部分にまで踏み込んで見直す児童は少なかったが、ほぼ全員が友達のアドバイスを生かして割付や見出しを書き直したり書き足したりしていた。また、友達のアドバイスをノートにまとめてリーフレット作成に生かそうとする児童もいた。



図4 伝え合う活動

(4) 本時の「まとめる」過程において

本時のまとめを児童の言葉で文章化した。友達と考えを伝え合うことで友達の伝えたいことが分かり、見直しにつながるというつづやきがあり、他の児童のうなずきも見られたので、児童の言葉をつなげてまとめとした。最後に個々の振り返りをノートに書かせ、リーフレットを書く活動に生かせるようにした(表1)。

表1 振り返りの記述

- 人それぞれの伝えたいことやテーマにした理由が分かった。友達の意見を聞いて、やはり自分はテーマを決めた理由も書くべきだと思った。
- 友達の質問で、自分のリーフレットを見直すことができた。友達が絵や写真を取り入れていたので、自分も取り入れた。
- 友達の考えを聞いてリーフレットに付け足すことができたし、自分では思いつかない考えがあったのでよかった。
- 友達が言ってくれたことを基に考えて、割付を見直すことができた。友達に見てもらうことは、すごく大事なことだと思った。自分と友達とは感じ方が違うから、見直すところが分かりやすくなる。

児童の振り返りには伝え合ったことのよさが多く書かれ、割付や見出しに対する考えにどのように作用したかの記述があったのは2割ほどだった。本時の最後に、図の扱いや枠の大きさといった形式的な部分だけでなく、なぜそのように考えたのかという内容的な部分にも触れて見直せると次時のリーフレット作成に役立つことを児童に伝え、リーフレットを書く活動へとつなげた。

5 考察

今回の授業実践では、情報を収集・整理し、自分の考えの根拠として活用し、文章を書くことに生かすという活動を行った。児童は、情報を根拠とすることは自分の考えをもつために有用だということが分かり、自分の考えを書く際の手立てとする力が身に付いてきていると感じる。

情報カードを使って情報を収集・整理する活動では、小さなカード形式で情報を収集させたため、自分に必要だと思われる情報を精選して引用する児童が8割ほどで、残り2割ほどは精選に時間がかかったり、引用が不十分で再度調べ直す必要が生じたりした。本単元では児童全員がインターネットからも情報を収集した。インターネット上の資料の情報源を明確にするためには大変な労力が必要であることを実感した児童も多く、情報の引用の仕方や情報源の取扱について考えるよい機会になったと考えられる。

情報を根拠に友達と考えを伝え合う活動では、リーフレットの原寸大を初めに提示し、限られた紙面をどのように使うかをイメージさせたことで、形式的に割付をしてから内容を考える児童も数名いた。情報を形式的に並べるのではなく、テーマを選んだ理由や割付に対する自分の考えといった内容的な部分が端的に表出される見出しも重視させ、内容的な伝え合いをさせる必要があった。伝え合いの後には友達の考えに触れて自分の考えを深める児童が多かったが、自分の考えのよさを再認識し、あえて直さない児童や、アドバイスを受ける中でアドバイス外のことに気付いて考えを深める児童も見られ、それは自分の考えを大切にしている姿と捉えた。

情報を根拠に自分の考えを友達と伝え合わせたことで、その後の活動では、自分の伝えたい考えが表出される項立てや見出しを再考し、情報をどのように使うかを考えながら書く姿が見られた。リーフレットには情報のみでなく、テーマを選んだ理由や、日本文化として扱われる意義についての自分の考えを書く児童もおり、自分の考えが伝わるように書く力を高めた児童もいると考える。

完成したリーフレット(図5)は友達と共有し、内容的な考えを伝え合う様子も見られた。

今後、情報を活用し自分の考えの根拠としながら書く活動を計画的に取り入れ、自分の考えを伝えるために、情報をどのように使って書くかを考えながら表現を工夫して書く力をより高められるよう指導していきたい。



図5 完成したリーフレットの一部